

# サッカーからフットサルへの競技移動についての検討

根本 凌 (生涯スポーツコース 地域スポーツコース)

指導教員 狩野 孝之

キーワード：フットサル，競技特性，環境

## 1. 緒言

この研究を始めようと考えたきっかけは、人気が高く競技人口の多いサッカーから発展途上であるフットサルへの競技者の移動に興味を持ったためである。

部活動でのチームメイトの大半も高校までサッカーを経験し、大学でフットサル部に入部した者が多い。そこでなぜ大学から新しい競技に移動するのかと疑問に思ったからである。また、新しい競技に対してどのような点に戸惑い、あるいは興味を持ったかについても疑問に感じた。

## 2. 研究方法

本研究の調査対象は、本学のフットサル部に所属しているサッカーとフットサル両競技を経験したことのある約 20 名の学生競技者にアンケートを実施した。

## 3. 結果と考察

競技移動の理由としては、「フットサルの競技特性に魅力を感じた」という回答が多かった。サッカーとは違った競技特性に興味を持つ選手が多く見られた。また、実際にフットサルを経験してから、サッカーよりフットサルの方が楽しいと感じる選手が多く見られた。また、フットサルは少人数、小スペースで気軽に楽しめるという環境面の利点もあるが、今回の調査では、むしろフットサルの競技特性そのものに惹かれて取り組んでいるプレイヤーが多かった。また、今後も続けたいとする回答が大半であった。

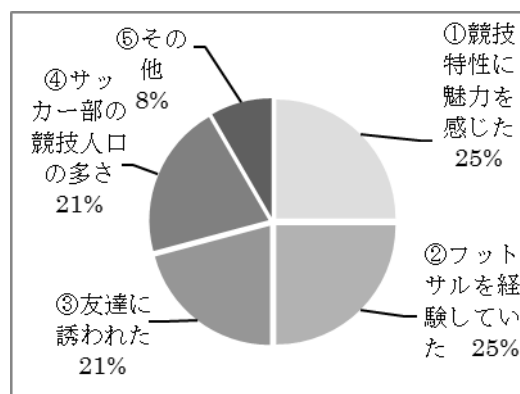


図 1, 競技移動の理由

## 4. まとめ

フットサルへの競技移動の理由の一つとして、気軽に楽しめるから始めたという人も見受けられた。だが、本学のフットサル部員へのアンケートでは、技術を向上させたい、競技そのものが面白いという回答が一番多く見られた。本気でフットサルに取り組みたい、上のレベルでフットサルをしたい、という前向きな姿勢が強く感じることが出来た。また、7割の選手がこれからもサッカーよりフットサルを続けたいと回答した。これもフットサルの競技特性そのものに魅力を感じたためと思われる。学生の間だけでなく、卒業してからもフットサルに関わっていきたいと考えている選手が多かった。

## 5. 参考文献

境 大輔・北川 薫 (2004)

「酸素摂取量および血中乳酸濃度を指標としたフットサルゲーム中の運動強度」日本体育学会大会号 (55), 278